

図書館報

第7号
発行者
学校法人
了德寺大学
理事長
了德寺健二

^^特集^^ 大学における 学習方法

図書館長
医学教育センター 教授
佐々木宏

はじめに

今回の図書館報は特に新1年生を対象に企画した。大学に入学後、半年が経過し、そろそろ学び方を身につけてもらいたいと願っていることである。各学科、各センターから重要と思われる科目の担当者をお願いして、その科目の学習法にポイントを書いて書いてもらった。新1年生に限らず、ほかの学年の学生にとっても、学び方に未だ不安を抱いている学生はよく読んで参考

解剖学の学び方

にしていたきたい。

なんとやおうと、解剖学を学ぶ最良の方法は人体解剖実習を通じてである。しかし、本学ではこれを行うことはできない。そこでこれに代わるやり方として、いくつか考えられるが、まずは適当な図譜あるいはアトラスを1冊備えることである。生涯使用に耐えるものを1冊、自分で持つておくことである。最近では教科書と図譜とが一緒にまとまったものが出てきているので、それを利用するのもよい。図譜として推薦できるものを最後に記しておく。

もうひとつの学び方は、生体解剖とよんでいるものを自分で実施してみることである。特に、理学療法学科、整復医療・トレーナー学科の学生は、骨学や筋学といった運動器系の知識が職業柄必須になってくる。骨や筋といった組織は自分

第7号 目次

特集	1-6面
大学における学習方法	
・佐々木宏 館長	
・角田純一 教授	
・中澤明美 教授	
・中村浩 教授	
・穂積信道 教授	
・増田敦子 教授	
・金森昭憲 准教授	

教員より 本の紹介	7-8面
・増田敦子 教授 『解剖生理をおもしろく学ぶ』	
・飯島浩之 客員教授 『解剖生理学がわかる』	
・菅沼徳夫 准教授 『「学び」の構造』	
『真の文明は人を殺さず』	

注意	9-11面
・館内コピー機の利用について	
・学生によるブログ・ツイッターへの不当な書き込みについて	

で自分の体を触ることによってかなりのものを確かめることができる。何もすることがなくぼんやりしている時間帯や、湯船に浸かっているときなどに、触診を繰り返してみることによって、解剖学的知識が身についてくるものである。私は、毎年新1年生にこのことを伝えていたのだが、一体全体どれほどの学生が実施してくれているのだろうか？昔から、解剖学は覚えることがとても多く、暗記の学問に過ぎないとよく言われ続けてきた。確かにその一面はあると思う。しかし、皆さんは次のことを考えたことがあるだろうか。皆さんは現在かなりの英文を読みこなせるはずである。こ

と同じことが解剖学に対してもいえないだろうか。要は、覚えることに対して興味を抱いているかどうか、大きくかかっている。振り返ってみれば誰でもよくわかることであるが、自分が興味・関心を持っていて、事柄に対しては、いつのまにか知らず知らずのうちには知識となつて身についているのである。つまるところ、将来自分が目指す職業にどれほどの関心を持っているかどうかで解剖学の成績は決まるのである。

* * * *

推薦する図譜・アトラス

- ^1^ グラント解剖学図譜 (J. E. Anderson 編 森田 & 楠沢 医学書院)
- ^2^ 解剖学カラアトラス (J. W. Rohen, 横地千仍 E. Lutjen-Dreco 二著 医学書院)

- ^3^ 学生版 ネット解剖学図譜 (Netter, F.H. 相磯貞和訳・丸善)
- ^4^ ネット解剖学アトラス (Netter, F.H. 相磯貞和訳・丸善)
- ^5^ プロメテウス...解剖学アトラス 全3巻 (Schenk & Thomas R. Gest著 佐藤 医学書院)
- ^6^ グレイ解剖学アトラス (Richard L. Drake et al. 著 塩田 医学書院)
- ^7^ あたらしい人体解剖学アトラス (Patricio M. Tank & Thomas R. Gest著 佐藤 医学書院)

* * * *

医学教育センター教授
角田純一

内科学の学び方

大学の講義も後期の授業が始まりました。大学生活も半年が過ぎて、想像していた大学生生活と違うと思っている学生もいるでしょう。どうやって勉強したらいいのか、悩んでいる学生もいるでしょう。私の経験をお話しすることは少しためらいがありますが、あまり参考にならないかもしれませんが紹介します。私は1985年に大学を卒業したので、学生のみんなから見たら、随分古い話になってしまっています。ほとんどの学生は生まれてもいないでしょう。その当時は、今のように入力もネットも無ければ、携帯も無く、パソコンなどはそれこそ夢のまた夢のような時代でした。そもそも想像もしていませんでした。教科書も少なく、値段も高く、翻訳されている本も少なく、解りにくいことが定評な本が逆にもはやされていったような時代です。試験前には過去問や予想問題をコピーして勉強するような学

生でした。試験対策の勉強は実はあまり面白くなかったのですが、成績を良くするにはそれしかありませんでした。卒業してからは、臨床の研修が始まり、実際の臨床の問題を解決するには、図書館で文献を検索して、コピーするのしかありませんでした。その後、アメリカに留学した先輩医師の話や、文献検索はコンピュータで行うとか、パソコンに論文を保存するとか、またまた、夢物語でした。しかし、実際にアメリカに行ったときは、研究所の文献は、マイクロフィルムで検索していました。必要な論文は、秘書さんが、大学でコピーして届けてくれました。その頃から、論文検索のサービスがあり、必要なキーワードを登録しておく、論文にアクセスできるようにになりました。その後、コンピュータによる文献検索は想像できないくらい進化して、今では、どこでもインターネットを通じて、世界中の論文にアクセスできます。今では、ネットでの情報もいつでも手に入る時代です。電車に乗っていると、ほとんどの方が携帯電話、スマートフォンを操作しています。い

ろいろなアプリがあり、電子辞書も使えます。そういったときに大学で勉強する意味は何なのでしょう。健康科学部の学生さんは、将来専門職として働くことが期待されています。必要な知識は膨大ですが、基本の知識が無いとどうにもなりません。実はこの学習が退屈で苦痛を伴うものですが、将来役に立つと言われなくても、今すぐ役に立つわけでもないし、せつかく習った知識も、実社会に出るとすでに古くなっているものもありま

す。以前の学習は、膨大な情報を覚えることに重点が置かれていました。もちろん、原理、原則を理解していた人もいました。試験の前に覚えておいて、ほとんど身につけていません。ですので、一度学習したことを国家試験の前にもう一度学習しなければなりません。ところが、日常生活に密接に関係していることは、忘れたりしません。しかし、基礎学習は、すぐには身につかないのです。どのように覚えるのかについては、いろいろの方法があります。暗記対策の本もあります。しかし、当面の試験対策には役に立ちませんが、本質的な理解はしていないので、すぐ忘れて

しまいます。この辺りは、時間が無限にあればいいのですが、そういかなければいいのではありません。どこかで折り合いをつけなくてはなりません。自分でなかなか実行できない予習の大切さは十分わかるのですが、なかなか実行できません。それでしたら、授業の中で集中して勉強するようにしてください。もちろん、予習が出来れば、理解は格段に上がるでしょう。それから、習った知識を出来たら、友達グループで学習して下さい。一人が講師になって代わる代わる教えるのです。疾患について説明をするのです。そうすると、「どういう病気なのか、何が問題なのか」が解ります。一人でももちろん出来ずから、ぜひ実行してみてください。そうすると知識が整理されてきます。理解が不十分だったことも解ってきます。講義で理解が不十分だった点も整理されます。過去の国家試験問題も、参考になります。練習問題として解いてみてください。問題を解くことで知識が記憶に定

です。自分が本当の意味で学んでこなかったことの反省も含めて、この言葉をいつも心に留めています。まとまりの無い内容になってしまいましたが、ぜひ、自分に合った学習方法で基礎知識を身につけてください。

看護学科教授
中澤明美

看護学科1年生の皆さんも入学して半年が過ぎ大学生活にも慣れてきたことと思います。1年次前期の学習は看護に直接かかわる科目も極少なく物足りなさを感じた学生さんもいたのではないのでしょうか。1年次後期からは、いよいよ「基礎看護技術」をはじめ成人看護学、高齢者看護学などの概論が開講されます。また、2年次からは「疾病・治療」に関する科目も看護学を学ぶ上で必ず理解し修得しなければならない重要な科目

です。そこで、今回は「基礎看護技術」「看護専門領域の概論」「疾病・治療などの医学系科目」の学習方法についてお話をしたいと思います。一、看護技術の修得は、日にして成らず。1年次後期からいよいよ「看護技術」がはじまります。ベッド上で動けない患者さんの身体の清潔を保つ「清拭」や「部分浴」、身体査定の基本となる「vital signs」の測定など、臨床実習で必ず実施する基本的看護技術について学びます。授業では、基礎看護実習室で学生同士が患者役、看護師役になり教員の指導のもと看護技術を実践しますが、看護技術の修得は授業で1回やったからといって簡単に身に付くものではありません。時間割の空き時間を見つけては実習室で繰り返し繰り返し技術を反復し身体に技(わざ)を刷り込んで下さい。ただし看護技術の修得は一人ではできません。それは、看護が常に患者という対象に提供されるものだからです。共に学ぶ仲間を見つけ、

お互いに患者役になり看護師役になりながら自己練習を重ね共に学び成長していくことが大切です。ただし、誤った技術を身に付けることは一番あってはならないことです。から、わからないことや曖昧なことは必ず教員の指導を受けるようにしましょう。二、看護専門領域の概論は、知識の暗記だけでは片手落ち。看護専門領域の概論では、「成人看護学概論」「高齢者看護学概論」「精神看護学概論」「公衆衛生看護学概論」が開講されます。各看護学概論とも、国家試験に多数出題される大切な科目ですが、ただ知識を暗記するだけでは大がかりな意味がありません。ぜひ、新聞を読みニュースに関心を持ちその分野でどのようなことが今、社会で問題となっているのか?看護の視野を広げてほしいと思います。例えば、私の担当している「高齢者看護学概論」では全員の学生に、高齢者、高齢社会、高齢者看護や介護など「高齢者」「老年」「老人」をキーワードにした新聞記事

を切り抜きレポートするという課題に取り組みます。現2年生は101名が101通りの記事に着眼し自己の考えを述べていきます。看護の学びを通して、社会の出来事に興味関心を持ちさらに自分で調べ追及してほしいと思います。三、医学系科目は予習より復習を完璧に。最後に、1年次から開講されている「人体の構造・機能」や2年次から始まる「疾病・治療」「薬理学」などの医学系科目の学習についてですが、医学系科目は難しい、という学生の声をよく耳にします。確かに国家試験にも数多く出題されますが、一番点を取りにくい分野のようです。そこで、医学系科目の学習は、予習ではなく復習を徹底的にやっ

てほしいと思います。その日の授業内容はその週のうちに復習しましょう。復習はテキストを丁寧に、丁寧に精読することがかかり力をつけることができます。国家試験模試で医学系科目がどついても点数が取れなかつたある学生さんが、夏休み徹着されるので、ぜひ解いてみてください。また、問題を暗記するのでなく、「なぜこの設問は間違っているのか、正しい設問は何か」も心がけて勉強して下さい。現在の国家試験は一部プール制といって問題がストックされているものもありますが、多くは新しく問題が作られています。しかし、この勉強をすることで基礎知識を確認できます。ある時、「内科医は、卒後何年かすると解剖を忘れていく」という言葉を本で見つけた時、本当だと思いました。卒業してすぐには机の上に解剖学の本がいつもありました。その後職場をいろいろ変ったこともありますが、いつの間にか解剖の本が無くなりました。今は、解剖学のアトラスもたくさんあり、語源から覚える本まであります。昔、こんな本があったなと思うときもありません。丸暗記は非効率です。ぜひ、いろいろな方法で知識を整理して下さい。「学んだことの証は、ただ一つで、何かが変わることである」という言葉を新聞のコラムから知りました。もともとは林竹二という方が1974年に発表した言葉(命題)

自分自身の学生時代のことを振り返っても看護の専門科目を学ぶことはもちろんですが、病気や身体の仕組みなどが、医学系科目の授業は、専門知識が増えて看護師に近づいているようでとてもうれしく興味をもっていたことを思い出します。1年生の皆さん、これから学ぶ様々な科目を楽しんで！学習をすすめて下さい。

理学療法学科 教授
中村浩

運動学で何をどう学ぶか

「運動学(Kinesiology)」とは読んで字のごとく「運動について学ぶ」学問のことです。しかしながら、その知識の大部分は解剖学(Anatomy)と生理学(Physiology)に基づいています。解剖学は身体の形すなわち構造(Structure)を学ぶことで、生理学は身体の働きすなわち機能(Function)を学ぶことです。運動学は解剖学と生理学を運動について応用したものといえるでしょう。応用を学ぶためには基礎がしっかりと理解できていなければなりません。これら3つの科目は専門基礎といつてすべての医療関係職種(養成には必修の科目です。今回は運動学の学びについて、「何をどのように学んだらよいか」少し解説します。

大切で、理学療法士やトレーナーにとっては筋の作用を知らなければ仕事ができないのは当然です。解剖学でも骨をスケッチしたように、学ぶ対象を絵図で表すことを習慣にしましょう。加えて、スケッチした絵に色をつけて系統的に学ぶことは知識を整理するのに大いに役立つと言われています。骨や筋、血管や神経を描いたら、筋はオレンジ色で、血管の動脈は赤色、静脈は青色、神経は黄色というように色をつけて整理しましょう。それと、絵を描くときはできるだけ大きく描きましょう。ノート全面を使って描くことで理解が促進され記憶が定着します。

第2に、「姿勢や歩行の様子」を知ることです。これが運動学の最終目標といつてもいいでしょう。骨折や脳卒中などで身体に障害が残存すると構造に大きな変化が起きなくても、身体の機能は不安定になります。少し難しいことですが、それぞれの障害にあつた新たな機能を見いだすことが重要となります。これが関節可動域や動作を改善するために筋のストレッチや筋力強化をおこなう理由です。姿勢や歩行に代表される動作を知る(専門

用語では動作分析といふ)ためには、対象となる動作のモノマネができないといけません。それが上手くできる人は理解もスムーズです。身体を動かすときのイメージを上手く付けるためには日頃からの運動が欠かせません。ですから、運動学を学ぶには知識と体力が必要になります。

* * * *

医学教育センター 教授
穂積信道

学習要領

ここでは、私が担当する病理学(概論)を取り上げて、学習の仕方、試験対策(期末試験、国家試験)について書いてみたい。病理学の理解には生理学と

解剖学の知識が必須であるが、基本的知識に問題のある学生がかなりみられる。病理学には生理学とは次元の違う用語が使用されるが、生理学のメカニズムを基礎としている。例えば充血、うつ血、出血などであるが、常識でも意味するところが分りそうである。しかし、国試にも頻繁に出題されるように、これらの定義を明確に理解できなければならぬ。はじめはがむしやりに憶えなければならぬが、王道はないのである。

学生は綺麗に印刷された教師から与えられたプリントで勉強しているようだが、効果はあがっていない。自分で苦労して、そのようなリストを作成すべきである。私は、小テストとしてプリントを配るが答はない。授業中に学生に答えさせる。自分の頭と手を使って完成すべきである。

学生の勉強の仕方について興味ある結果がでている。本試験で「慢性炎症の特徴」を選ぶ問題を、再試験では「急性炎症」に変えた。28人の再試験受験者全員が「慢性炎症」を選んだ。電離放射線のうち「電磁波を選ぶ」問題を再試験では「粒子線」に変えた

* * * *

ころ、30人のうち28人が「電磁波」を選んだ。これから分かるのは、学生は時間を費やして勉強しているということである。「勉強」をしていなければこのような間違いは起こらない。一体どこに問題があるかは歴然としている。

過去問題で勉強する時でも選択できない問題についても何故そうなのか理解しなければならぬ。例えば、進行性筋ジストロフィーの問題がでたとする。国試では数あるキーワードのなかでも出るのはいっただけであろう。この事項に關しては、筋線維の病理、遺伝形式、歩行、仮性肥大、ジストロフィン遺伝子、ALSや他の疾患との区別を同時に勉強すべきである。学習法を少し変えるだけで、劇的に学習効果をあげることができるはずである。しかし、それには学生自身が気がつかなければならぬ。

医学教育センター 教授
増田敦子

勉強の仕方、継続は力なり

私は生理学の最初の授業のときに、生理学の勉強の仕方を話しています。そこでは、まず、丈夫な家を建てるためには基礎・土台が重要だと話しています。家が建つてしまつと、基礎・土台は見えませんが、でも、しっかりと基礎・土台があるからこそ、安心して住める家になるのです。つまり、解剖学と生理学は医療従事者になるための専門科目の基礎・土台になる科目だということです。ただ、大学に入学してすぐに勉強するには難しいかもしれません。でも、この避けて通ることの出来ない壁を乗り越えて欲しいと思います。そこで、生理学にとどまらず、まずは学生の皆さんからよく聞かれる、勉強の仕方についてについて、もう一度、話していきたいと思います。

大学設置基準では1単位を取得するためには45時間の学習が必要であると規定されています。でも、大学での実際

の授業では、講義の場合はその3分の1、つまり15時間しか勉強しません。これは授業時間外に30時間の自習、つまり予習と復習をすることを前提としているからです。でも、これは大学に限らず、今までの学校生活の中でも、先生から予習と復習をしないさい、と散々言われてきたことと同じです。

まず、なぜ復習しなければならぬかということ、人間は忘れる生物だからです。復習の重要性を説明するものとして、19世紀のドイツの心理学者であるヘルマン・エビングハウスが行った実験で得られた結果をグラフに示した忘却曲線が有名です。エビングハウスは、記憶と忘却の時間的関係を測定するために、「MSL」といった「子音・母音・子音」の關係のない3文字つづりを暗記させ、一定時間経過後、どの程度思い出せるかを実験で調べました。その結果、20分後には42%を忘れ、58%を覚えていました。1日後には74%を忘れ、26%を覚えていました。このように、覚えていた内容は指数関数的に急速に減少していきますが、その後の減少のスピードは緩やかになつていきます。1ヶ

月後でも79%は忘れてしまつたが、21%は覚えていました。この実験で使用されたのは無意味な音節ですが、YOU、SAY、NOなど意味を持った内容を覚えるのであれば、忘れるスピードはもっと緩やかになると思つています。いずれにしても、時間が経てば経つほど忘れる量は多いので、かなり忘れてしまつてからの復習では長時間の勉強が必要になります。逆のことを言えば、早ければ早いほど忘れる量が少なくて済みやすくなります。復習すると、それ以降の忘れるスピードは落ちてきますから、復習する量も少なくなります。ですから、授業の後、早めに復習し、繰り返し復習すれば、比較的短時間で覚えることが出来ます。具体的には、授業の後早めに、出来れば、その日のうちに、教科書やプリント、ノートなどを、たとえ10分でも見直す、忘れるスピードはかなり遅くなると思つきます。テスト直前に5時間勉強するより、30分の復習を10回やったほうが、ずっと効率よく覚えられと思います。

また、意味もわからず丸暗記では、エビングハウスの実験のように、すぐ忘れてしまいます。内容を理解して覚えようと忘れるにくくなります。どうしても、丸暗記しないとならない専門用語もあります。カタカナが覚えられないという学生さんも多くいます。そういう用語は、声を出して(口を使う)、読んでみる(耳を使う)。ノートにまとめる(手を使う)、というように、全身を使って覚えましょう。これを繰り返しれば、必ず覚えられます。

初めて聞く言葉はとて難しく感じるものです。「あ、聞いたことがあるなあ」と程度でもいいのです。1度でも見聞きした言葉は初めて聞くのとは全然違います。だから、難しいからと言って、復習しなければ、覚えられません。でも、復習を繰り返せば、初めてより2回目、2回目より3回目の方がずっと難しいという感覚は少なくなるはずなんです。そういう意味では予習も大切です。予習は教科書にぎつと目を通すだけでもいいのです。分からなところは読み飛ばしていいのです。何となくこんな感じ、でいいのです。教科書を全く見ずに授業で初めて聞くよりは、ずっとわかりやすいはずなんです。

このように、日頃から短時間でもいいから、予習と復習を地道に続けた方が、試験の前に長時間勉強するより効果的に勉強の成果を上げることが出来ます。「継続は力なり」と、わかつていても、努力し続けるのはなかなか出来ないものです。「意志あるところに道は開ける」とも言います。努力を続けるには、強いモチベーション、要するに「やる気」が必要です。解剖学や生理学が専門科目の基礎・土台になることがわかつていても、直接、専門科目に結びつかないと勉強を続けるモチベーションになりにくいものです。でも、将来は医療従事者として患者と対峙するわけですから、患者の体を理解する必要があります。その患者も自分も同じ人間ですから、まずは自分の体に興味を持ちましょう。健康な皆さんは、意識することなく息をして、おいしいものを食べ、何不自由なく歩いてトイレに行けます。生きていくこと自体に不便を感じることはないでしょう。でも、それこそが不思議なことだと思いませんか? 椅子に座つて勉強している時は意識していない呼吸も、テニスでボール

教員より本の紹介

医学教育センター 教授
増田 敦子



『解剖生理をおもしろく学ぶ』

増田敦子監修 医学芸術社
ISBN:978-4-87054-302-7

解剖学は身体の形態と構造について学ぶ学問です。一方、生理学とは、身体を構成している部分がどのように機能しているのかを学ぶ学問です。身体に限らず、いろいろな物の形は、必要とする働きが行なえるような形をしています。逆を言えば、こういう形をしているから、こういうふうに関係しあっている。同じように、解剖学と生理学は密接に関連しあっている。解剖学と生理学は一緒に学んだほうが理解しやすいでしょう。ですから、この本では、解剖学の専門書ほど詳しくはありませんが、大雑把に構造の全体像がわかる程度に説明をしながら、働きを説明してあります。

さて、私たちは普段、呼吸して、食事をして、排泄しています。特別、意識はしませんが、これが生きているということではないでしょうか。実は、人間の体を構成している細胞の一つ

一つも同じようなことをしています。生物の最小単位である細胞は、血液から栄養素と酸素を取り込み、それを細胞内で代謝することで、生命活動に必要なエネルギーをATPという形で生成します。そして、代謝によって生じた老廃物は血液中に排出します。このように、1つの細胞を1人の人間に置き換えると、多細胞生物である人間の身体は実に巧妙で、また人間社会によく似たシステムを作っています。つまり、様々な臓器がそれぞれの役割を果たしながら、1人の人間の生命活動を維持しているのです。本書は、一つ一つの細胞が快適に生活するために、それぞれの臓器がどのようにその働きを遂行しているのか、社会勉強するような気持ちで、体の中を旅するガイドブックだと思って読んでください。

客員教授
飯島 浩之



『解剖生理学がわかる』

飯島浩之(著) 技術評論社
ISBN:978-4774150550

『解剖生理学がわかる(技術評論社)』は初めて解剖生理学を学ぶ医療系大学および専門学校の学生さんに向けて書かれた本です。解剖生理学は医学の基礎科目であり、医療系の仕事を志すひとは必ず学ばなければならない教科目の一つです。また、専門科目を学ぶための基礎となる科目であり、入学後の早い段階から開講されるのが通常です。ところが、入学当初に渡される教科書は分厚く、「意味の解らない単語」、「読めない単語」、「かたい文章」のオンパレードです。このため教科書を読むという意欲が失われがちです。さらに、授業は人体のすべてを扱う範囲の

広い教科を短いコマ数でこなすためどんどん進行していきます。したがって、知識の積み残しを防ぐために復習や自己学習が必要なのですが、そこには難解な教科書の壁が立ちはだかっています。この本は物語風の進行、簡単な文章構成、専門用語を少なくすることにより解剖生理学に対する苦手意識や拒否感を緩和し、人体の構造と機能の理解を深めることを目指して書かれた本です。教科書を読んで挫折する前に目をとめてみる価値があります。

を追いかけると息が弾んで苦しささえ感じるし、心臓の鼓動を実感します。怪我をして血が出て、しばらくすると血液は固まり出血は止まります。体の仕組みは知れば知るほど、その巧妙さ、精密さに驚かされます。感動すらおぼえませんか? このような日常生活の中で感じる体の仕組みに興味を持ちましょう。興味のあることには、のめり込めるのですが・・・。

普段から美術に慣れ親しんでいる私としては、本学の学生の皆さんに芸術鑑賞をお勧めします。現在では画集や美術書、インターネット上で様々な芸術作品が紹介されていますが、今年は気分転換として美術館まで足を運んで見ては如何でしょうか。アートファンの方ならすでにお分かりの通り、なんと言っても実感がもてて心に残るのは、作者の描いた実物の絵画作品などを間近で鑑賞することです。実物から感じられる視覚的な情報は印刷物よりも遙かに多い筈です。微妙な絵具の重なり方や画面のマチエール(絵肌)などがよく観察できて、あらためて作者の技量の高さを認識することでしょう。常に絵を描いていなくても、絵を見る習慣をつけるだけでも美的感性は磨かれていくものです。問題はどんなアーティストの美術展に行けばよいのかという点です。アドバイスをし

美術学科 准教授
金森昭憲

美術館に行こう!

では自分が興味を持てるもの、好きな作品を見に行くのが一番です。人間には趣味趣向があり、そこから始めてくださいます。まずはそこから始めてください。イラストレーションのよい作品、メッセージ性の強い現代美術、西洋の巨匠の描いた油絵、伝統的な日本画など、なんでも良いと思います。習慣化されてくると鑑賞するジャンルも少しずつ広がり、苦手なものでも関心が持てるようになってきます。

良いタイミングなので、皆さんに私のお勧めの展覧会を紹介いたします。私自身が好きな近代の洋画家である松本竣介の展覧会が、今年の11月23日(金・祝)から世田谷美術館で開催されます。美術関係者のあいだでは著名な作家ですが、一般的には知らない方も多いと思います。松本竣介は12歳で病氣のため聴力を失い、17歳の時に画家を目指して若手から東京に上京してきました。画家の境遇や周囲の人間関係も興味深いのですが、なんといっても作品が素晴らしいのです。モチーフは建物のある風景画や人物画などが詩情豊かに描かれていて、展覧会場では凡そ120点の油彩画、数々の素描や、写真資料、書簡な

どが公開され、今年は松本竣介生誕100年の大きな節目の展覧会なので企画側の熱意も伝わってきます。戦争にまみれた時代に、あれほどまでに創作に心血を注いだ画家が存在した事実は、多くの人々に勇気と希望を与えてくれると思います。この展覧会は5会場の巡回展で、岩手展、神奈川県、宮城展、島根展、東京展の順で行われ、3会場は既に終了して残すところは島根県立美術館と東京の世田谷美術館のみです。私は神奈川県(神奈川県立近代美術館葉山)の展覧会を見てきたので状況がわかるわけです。昨年の東日本大震災の影響で開催が危ぶまれましたが、予定通り実現されている貴重な巡回展です。この機会に是非、世田谷美術館に足を運んで見ては如何でしょうか。見に行った学生さんは後程感想を聞かせてください。

生誕100年松本竣介展
・島根展：島根県立美術館
2012年9月29日(土)から11月11日(日) 休館日火曜
・東京展：世田谷美術館
2012年11月23日(金・祝)から11月14日(月・祝)

館内コピー機の利用について

館内のセルフコピー機を利用する際には、「文献複写申込書」の提出をお願いします。

(記入・提出手順)

コピー機横備え付けの「文献複写申込書」に日付、氏名、学籍番号、コピーの内容を記入し、図書館員に渡すか、カウンターの文献複写申込書提出Boxに入れて提出します。

(申込書は著作権を遵守する旨の誓約書にもなっています。内容をよく読んでください) 著作権の範囲内にてコピーを行ってください。

複写できる資料は以下の通りです。

以下のことを守らずに複写することは著作権の侵害となります。

本学図書館所蔵の資料に限ります。(研究室保管図書を含む)
個人の資料やノートのコピーはできません。

著作物の一部分に限ります。
一冊のうちの半分以上は複写できません。

定期刊行物(雑誌や新聞)に掲載された各論文その他の記事は全部複写できますが、発行後相当期間を経たもの(次号が既刊となったもの、また発行後3ヶ月を経たもの)に限ります。

最新号に掲載された論文や記事は、すべてコピーできません。

複写部数は一人につき一部に限ります。
コピーは各人でお申し込みください。

利用者の調査研究のための複写に限ります。

有償無償を問わず再複写したり頒布したりしてはいけません。

！万一著作権法上の問題が発生した場合は、その一切の責任は申込者が負うことになります。



教養教育センター 准教授
菅沼 徳夫

『「学び」の構造』

佐伯胖(著) 東洋間出版社
ISBN:978-4491002774



『真の文明は人を殺さず』

小松裕(著) 小学館
ISBN:978-4093882088

最近読んだ本を2冊紹介します。

1冊目は『「学び」の構造』(佐伯胖著、東洋間出版社、1975)という本です。

少し古い本で印字も、少し読みにくい気がします。でも、古い本の方が物事の本質を得ていることもあるような気がします。

時々、ひとりの教師として、ひとりの父親として、ひとりの人間として、「学ぶ」とはどういうことか、「教える」とはどういうことか、と考えることがあります。そんなことを何となく考えている時に、この本を見つけました。

私は学生の皆さんに講義をする仕事をしていながら、学ぶということから逃げたい、怠けたいと思うことが多い人間です。活字を読むとすぐ眠くなります。文章を書こうとすると面倒くさいと思います。思い起こせば、私は子どものころから「なぜ勉強をするのか」というような質問を親や教師、自分自身に問うことがよくありました。皆さんの中にも同じ経験をもつ人がいるでしょう。その都度、納得できる答えが返ってこなくて、何となく言いくめられて終わりました。そうこうしているうちに、大学生になり、保健体育の教員になり……

「なぜ勉強するのか?」。私も未だにまともな答えをもちませんが、この本を読み進めていると何となく答えに近づけるような気持ちになりました。

“現代は、科学や技術に対する不信の時代である。「勉強して何になる」、「学んで何の役に立つ」、「科学は人間を不幸にしたのではないか」、「技術は人々を疎外し、公害を生んだのではないか」、「よく勉強した人は単に出世して結局は他の人々を支配し苦しめたに過ぎないのではないか」……。それにもかかわらず、わたしはあえていう。これらを克服していく道は、私たち自身がまず「学ぶ」こと以外にない、と。”(文中より引用)

著者にうまく言いくめられたのかもしれませんが、人は学ぶから人間かもしれないし、生きていくことは学び続けることなのかもしれません。

「技術は人々を疎外し、公害を…」という言葉があったの

で、2冊目は公害に挑んだ人の本を紹介します。『真の文明は人を殺さず』(小松裕著、小学館、2011)という本です。

8月30日(木)の東京新聞に“田中正造百回忌 足尾銅山の今”という記事が大きく載っていました。足尾銅山は、明治以降日本一の銅山として栄えました。ところが、精錬時の鉱毒が川に流出したり、排出された亜硫酸ガスなどで森林がはげ山となったり、自然を破壊しました。当時、栃木県選出の衆議院議員だった田中正造は帝国議会(今の国会)で鉱毒問題を取り上げ、天皇に直訴(当時は死刑)を試みたり、晩年は財も持たずひとりで谷中村に入り、村を守るために村民とともに政府と闘ったりしました。

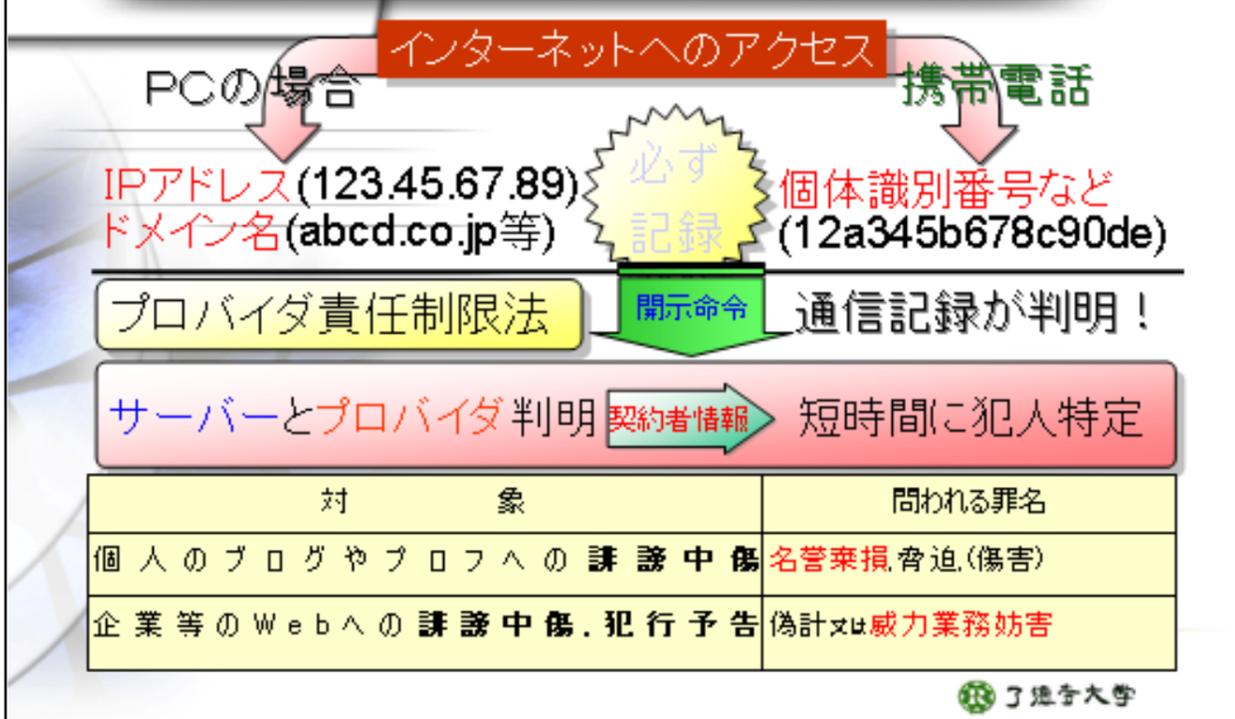
これも今春、新聞の記事にあったのですが、足尾銅毒事件の公害は、ため池に溜まった汚泥に含まれる鉱毒の被害が、今でも、水害のたびに心配されているそうです。つまり、足尾銅毒事件は百年たった今も終わっていないということです。このような公害に国が取り組まず、たったひとりの人間が当時の国を相手に闘ったということは凄いと感心します。

この本の中で、「真の文明は 山を荒らさず 川を荒らさず 村を破らず 人を殺さざるべし」、「最弱を以て最強に当たる」、「一身以て公共に尽す」等々、今の時代だからこそ人として本当に考えなければならないことがある、と思えるような言葉がたくさん出てきます。また「学ぶ」ことについても田中正造は、「学問は実学(実物に当てた研究)を学ぶべきであり、「人民を救う学文」でなければならない。」と言って、若者に日本という国の将来を託しています。

学ぶということは、誰もが幸せに暮らせる未来にもつながらることなのですね。

皆さんもこれらの本を是非読んでみてください。また、面白い本があったら是非友人や教師に教えて下さい。本を通して学びを共有すると、活字が苦手な人でも読む気持ちを大いに喚起されますので。

インターネット～匿名などあり得ない～



学生によるブログ・ツイッターへの不当な書き込みについて

了徳寺大学では、『IT活用ガイド 5章5項5-3-1(以下の文章参照1)』にも記載してあるとおり、ネット上の誹謗中傷・名誉毀損・侮辱・営業妨害等の発言は一切禁じている。**誹謗中傷・名誉毀損発言した場合は、法的処罰(刑事罰参照2)はもちろんのこと、大学としても厳重な処罰与える。**

ネット上では、匿名はありえない(添付書類参照)。発信元は、プロバイダ責任法に則り、被害者が開示要求をすれば、加害者情報は迅速に特定される。この事を踏まえ、責任を持ち発言には留意すること。

参照1
IT活用ガイド 5章5項5-3-1抜粋
(1) 誰でも自由にコミュニケーションできるインターネット
インターネットでは「匿名」でのコミュニケーションがひとつの魅力となっています。肩書きや年齢などを気にせず会話を楽しむことができますが、これが悪用されることが多いのも事実です。ネット上での詐欺、デマ、中傷などにより、心に傷つけられる人が多くいます。電子掲示板(mixi,2ch,Twitterなど)で発言した安直な一言が相手を傷つけ、名誉毀損の訴えを受けた大学生の実例もあります。一度インターネット上に公開された情報は回収不可能で、心無い一言が被害を拡大することになります。相手が誰であるか分からない危険性に注意することと同時に、自分が加害者にならないよう、発言には十分注意するべきである。了徳寺大学では、学生が他者に誹謗中傷・他者の個人情報などの発言を掲示板等に掲載した場合、厳罰に処します。

IT活用ガイドは、情報処理講義に配布しており、全学生が所持している。

参照2
刑事罰
名誉毀損罪
公然と事実を摘示し、人の名誉を毀損した場合に成立する(刑法230条1項)。法定刑は3年以下の懲役若しくは禁錮または50万円以下の罰金である。

侮辱罪
事実を摘示しなくても、公然と人を侮辱した者は、拘留又は科料に処する。

威力妨害罪
威力を用いて他人の業務を妨害する罪。刑法第234条が禁じ、3年以下の懲役または50万円以下の罰金に処せられる。



図書館 ご利用案内

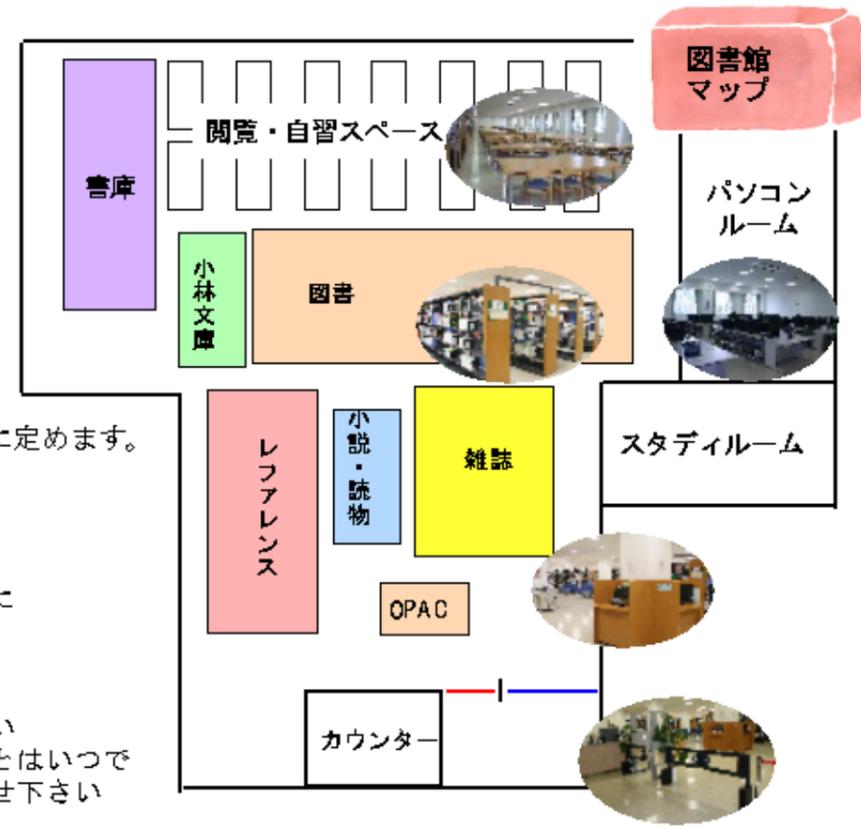
図書館のルール

開館時間
 月曜日～金曜日 8:30～20:20
 土曜日 9:00～16:50

休館日
 日曜日、祝日、大学休校日
 館内整理日、年末年始
 但し、夏季休業等の期間は別に定めます。

図書館のご利用

- ・図書館の資料や施設は大切に
 - ・私語は慎みましょう
 - ・飲食は全面禁止です
- ルールを守ってご利用下さい
 調べたいことや気になることはいつでも
 もカウンターまでお問い合わせ下さい



了德寺大学図書館報 第7号

発行者：学校法人了德寺大学
 理事長：了德寺健二
 発行日：2012年9月30日

